

# 銅輸出、銅輸入とも揃って減少

## 自動車は生産、住宅着工は持家、貸家、分譲とも増加 販売とも大幅減

### ■本橋本健一郎氏リポート①

季節調整済年率換算値では八五万五千戸。前月比七七％減。先月の増加から再びの減少。

#### ◆貿易関連指標

##### 輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が三九・二％減の四万七、一六七t、スクラップが三五・五％減の二万二、三三八t。

##### 輸入

輸入は電気銅が前年比五七・九％減の二五・一t、スクラップが九七％減の八、六九三t。

#### ■前月の国内指標

日本伸銅協会が公表した二〇二一年八月伸銅品生産動向速報値によると、八月伸銅品生産量は前月比一六・四％減少の五万五、三三〇トン、前年同月比五〇・六％増加した。コロナ前の二〇一九年八月と比較しても三・四％増加した。引き続き好調が続いている。

日本電線工業協会発表の出荷速報(推定)は、前年比三・二％増の四万五、七〇〇t。

#### ■国内概況まとめ

##### 【自動車生産】

生産動向統計によると、八月の自動車生産台数は前年比二六・三％減の四四万八、四三三台。

##### 【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、九月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇％減の二〇万五、四三三台。うち乗用車三一・七％減、貨物一三・一％減、バス二〇・七％減。(六圓へ続く)



横本健一郎氏

九月前半はジャクソンホールでのパウエルFRB議長講演が想定内の年内緩和縮小(テーパリング)を開始

#### ■国際概況

始まったこと、八月の米雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比三万五、〇〇〇人増と、市場予想の七二万八、〇〇〇人増を大幅に下回る強気な内容だったことを受けてドル安などのプラス材料もあったが、中国の八月の財新・中国製造業購買担当者景気指数(PMI)が昨年四月以来、初めとなる五〇割れとなったことで中国経済に対する不安感が強まったこと、デルタ株の感染拡大による貿易回復鈍化懸念を燃えしLMEX相場はDOWN九月十五日時点で九四〇七ドル七セツと月初値より八七ドルDOWNの締めとなった。後半は米国のインフレ上昇懸念の緩和とこれを受けた早期テーパリング観測の後退及びドル売り傾向となったプラス材料もあったが、予想外に強気となった八月の米小売売上高を受けてドル高傾向。中国不動産大手恒大集団の経営破綻に備えるよう中国政府が地方政府に指示したことが伝えられるなどを燃えしLMEX相場はDOWN、九月末日現在、後半スタート価格から二六・一ドルDOWNの九二七ドル。十月スタート建値は一〇四万円。

#### ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS) 一一・〇・九〇→一一・二・六五(円)。

#### ◆自動車生産台数

生産動向統計によると、八月の自動車生産台数は前年比一六・三％減の四四万八、四三三台。

#### ◆自動車販売台数

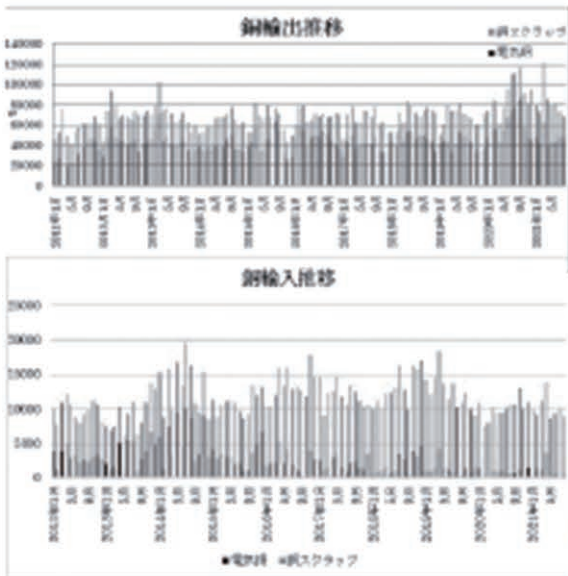
日本自動車販売協会連合会によると、九月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇％減の二〇万五、四三三台。

#### ◆住宅着工戸数

八月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比七・五％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比七・七％の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万四、三〇三戸。前年同月比七・五％増。六カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六、一四七千㎡。前年同月比二・五％増。五カ月連続の増加。





## LME銅・中国の電力不足と恒大集団の経営不安問題が左右か 為替予想

(四週より続く)

【住宅着工戸数】

八月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比七・五%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比七・七%の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万四、三〇三戸。前年同月比七・五%増、六カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六、一四七千㎡。前年同月比二・一五%増、五カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八五万五千戸。前月比七・七%減、先月の増加から再びの減少。

【伸銅品生産】

日本伸銅協会が公表した二〇二一年八月伸銅品生産動向速報値によると、八月伸銅品生産量は前月比一六・四%減少の五万五、三〇トン、前年同月比五〇・六%増加した。コロナ前の二〇一九年八月と比較しても三・四%増加した。引き続き好調が続いている。

銅糸は同比一・一カ月連続のプラス。引き続き車載、デジタル家電用の半導体向けが好調である。自動車生産挽回に向けた積み増し生産が続く、需要が堅調である。

銅糸の需給ひっ迫感の音が聞こえてくるが、現在銅糸はフル生産が続いている。それでも顧客から銅糸がショートした話はない。

黄銅棒同比七カ月連続プラス。タッチレス水洗向け需要伸びが続く。

【電線出荷】

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比三・一%増の四万五、七〇〇t。うち国内二・二%増、輸出が五六%増。

【輸出】

電気銅輸出が三九・二%減の四万七、二六七t、銅スクラップが三五・五%減の二万、二三八t。

【輸入】

電気銅が五七・九%減の二五・二t、スクラップが九・七%減の八、六九三t。

【見通し】

・八月の自動車生産が一六・三%減。九月国内販売台数が前年比二〇%減。

生産、販売ともに急減少。半導体以外の中国からの部品供給の遅れからとのこと。

今後には注視。

・八月伸銅品生産量は前年同月比五〇・六%増加した。前月に続き五割増！

自動車メーカーが計画する今年九月からの挽回生産に向けた在庫積み上げが大きい。更に増加するが注目。

・日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比三・一%増の四万五、七〇〇t。うち国内二・二%増、輸出が五六%増。輸出は増加率が大幅増加！

内外ともにプラスが続くが注視。

・銅輸出は電気銅、スクラップともに内需旺盛に伴い減少。

・銅輸入は電気銅、スクラップとも世界的な原料不足から減少。

【スクラップ状況予想】

前月に続き流通(二次問題)在庫は銅建値が一〇万円から一時一〇三万円まで急落した(その後一〇八万まで回復)ことから、発生が無く在庫薄。

需要面に関して前月に続き中国の部品調達遅れからの自動車生産の減少傾向があるが、挽回生産に向けた在庫積み上げから需要は旺盛。仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問題も多く、定期で入らないメーカーが高値買いの傾向が今月も続く。

【LME・為替予想】

今月は

①中国の二酸化炭素排出削減措置と、これに伴う電力供給量の減少が原因となった工業用金属の需要減退懸念

②中国不動産大手・恒大集団の経営不安問題に左右される

①に関しては、いままでも環境問題に関しては強硬な態度で臨んでおり、工業用金属の需要減退懸念は今月もつづくのではないかと見られる。②に関しては、救済する、しないの二択ではなくマーケットの様子を見ながらの解決策を行う可能性が高く、上下とも動きにくく状況になるのではないかと見られる。

これらを踏まえた十月の銅価格は八、五〇〇〜九、五〇〇ドル(セツル)との予想。ドル円値は一〇九円〜一一二円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては九七万〜一〇九万円程度と予測している。